

## 昭和の連休

校長 武井 正明

昔の世の中は、今ほどゴールデンウィークなんて浮かれてなかった気がする。

私にとって子どもの頃の連休の思い出といえば、思い出にもならない恥ずかしい話だが、やっぱり大好きだった巨人の堀内投手のことが真っ先に浮かぶ。

昔は四畳半部屋にあったラジオをよく聴いた。

今みたいに、その気になれば好きなプロ野球の試合がいつでも見られるような時代ではない。テレビは民放が2チャンネル。地方は夜7時半から9時前の限られた時間帯。時間延長などない。それも殆ど巨人戦しかやっていなかった。

五月の連休になると後樂園球場には鯉のぼりが揚がる。

そして記憶にあるのは、こどもの日はデーゲーム。巨人の相手はいつも中日ドラゴンズ。そして先発ピッチャーは、いつもエース堀内恒夫だった。

堀内は特に中日のマーチンという外国人打者を得意としていた。

試合開始午後1時半に合わせてラジオのスイッチを入れる。ONの赤い小さな光が点く。

すると後樂園のイニング間のハモンドオルガンの演奏音が聞こえてくる。この何とも都会的なプロっぽい雰囲気、ラジオから伝わってくる。ラジオってすごいよな。

後樂園は今シーズンから日本初の人工芝が敷かれた。鮮やかなグリーンが映える後樂園に思いを馳せながら聴く。

ラジオ実況の合間に堀内が投げ込む球が、ミットに吸い込まれる音が聞こえる。打球に反応してどよめく観客、場内アナウンスの声、主審のコール、応援団の笛…。映像がない分、その景色をいつも想像しながら、集中してラジオを聴いていた。

そして堀内は…見事散発3安打2-0の完封勝利を収めるのだ。ヒーローインタビューでの堀内の声を聴いて、私の楽しい時間が終わる…。

これは「連休の」でも何でも無いね。ただの休みの日の思い出。

家族でおでかけなんて全くなかった。それでも私は、これで十分満足だった。

今は何でも手に入る豊かな時代だ。

でもどうだろう。こんなに豊かなのに、何か欠けているような気がするのは私だけか。

ラジオに囁き付いていた当時の自分が、昭和の時代が、やけに懐かしくなる時がある。歳を取ると過去の記憶が美化されるというから、やはり歳なのかなあ…。

吉中の皆さん、それぞれの楽しみ方で有意義な連休をお過ごしください。